

木の日の研修「楽しく自然観察」

【開催日時】2020年7月2日(木曜日) 18:30~20:30

【開催場所】林友ビル6階会議室

【主催】森林インストラクター東京会(30期 みわの会)

【講師】矢野亮先生

【一文紹介】

「草や木を使ったものづくり」や「自然界の不思議」「動物の生活跡を調べる」

【公開記事】

1. 草や木を使ったものづくり

・ホオノキのお面づくり

目の穴のほか、口の両脇あたりに小さな穴をあけて、ススキを2本差し込み、裏で口にくわえる。

→両手が空くので、子供がもっと楽しめる。

・ツバキとクロマツで虫籠づくり

アカマツの葉は柔いから不適。

Q) 中に入れた虫が逃げないようにする方法は? →A)セミの抜け殻を入れる。いい雰囲気が出る。

・若葉のミニ函鑑づくり

子供が結構熱中する。達成感あり。

・どんぐりで顔の標本づくり

Q) 怪人「どんぐり男」二十面相の中で一番人気は? →A)バカ殿(展示すると必ず盗られる)

・ススキの穂で箒づくり

Q) 不思議な箒。何が不思議? →A)最初はいいが古くなり枯れてくると、
「掃けば掃くほどゴミが出る」

2. 自然界の不思議を探る

・マツボックリの秘密

Q) 口の細い透明の瓶に入っている大きなマツボックリ。どうやって入れたの?

→A)水の中に入れ縮ませて、その後瓶に入れて乾かすと大きく戻る。

・冬芽合唱団

冬芽を顔にみたくて、いろいろな枝を台の上に立て、ボンドで張り付ける。

Q) 一番真面目なのは? →A)サンショウ、Q) 横着なのは? →A)ネムノキ(すぐ横たわる)。

・樹液に集まる虫

昼と夜では集まる虫が違うことを子供と観察する。

Q)「ハチは西に行くので東に逃げろ」なぜ? →A)二四が八(笑)

・クモを呼ぶ

音叉鳴らしてをジョロウグモの網に触れると、獲物がかかったと思いき移動してくる。

→頭が悪いクモは音叉にからみ、頭のいいクモはすぐ気づき定位置に復帰。

・保護色ゲーム

赤・黄・緑の楊枝を芝生にばら撒いて、みんなで競争して探す。

→緑の発見率はとても低く、幼児から大人まで楽しめる。



①木の日の研修 実施



②不思議な箒の正体は!!

3. 動物の生活の跡を調べる

- ・硬いクルミを食べたのは？

Q) かなり割れたクルミ →A)バリバリ食べるタイワンリス

Q) きれいに穴が空いたクルミ →A)大木の裏や石の間で静かに食べるアカネズミ

- ・動物の糞のいろいろ

長くて端がピュッと尖った糞は臭い →動物質の食事（ヒキガエル）

コロコロした糞は臭くない →植物質の食事

- ・ヒキガエルの糞の分析

ザルに入れて水で不純物を流し、固形物だけを残し、種類毎にまとめ、部品で甲虫を復元する。

→センチコガネ 4 体、カメムシ 3 体を食べたなど判る。

4. 矢野先生が 50 年勤務する自然教育園（港区白金台の大自然）のトピックス

- ・2004 年のキアシドクガの大発生で 1,300 本あったミズキ（食草）は、60%が枯れた。

→2018 年から再び大発生が起っており、残り 600 本も無くなる懸念。

- ・園の池に外来種を放った輩がおり、かいぼりしたらブラックバスが 5~6 匹。

→外来種はかいぼりでは不十分。しゅんせつしないと完全駆除できない。

- ・園の池にカワセミが金魚を運んでいたが 2000 年に止めた。

→六本木の釣り堀からせつせと運んできていた。

六本木ヒルズ建設に伴い停止。元オーナーはヒルズ最上階にお住まいとのこと。



③カワセミの標本

時折、ジョークを織り交ぜつつ展開する矢野先生の研修はとても楽しく、またいろいろな気づきをいただける内容でした。

文章だけでは十分にお伝えできないのが残念です。

【参加人数】 38 名(内訳 FIT:38 名)

【報告者名】 中村賢史(30 期 みわの会)

【報告写真枚数】 6 枚



④ソーシャルディスタンスでのコナラの殺斗笛を披露



⑤今年度はじめての「木の日の研修」



⑥矢野亮 先生の講義